



## 石川丈山

石川丈山は、天正11年(1583)三河国碧海郡泉郷(現在の安城市和泉町)に生まれました。石川家は、丈山の曾祖父の代から松平家(後の徳川家)に仕えてきました。丈山は、幼い頃から武芸に秀で、豪勇さで知られる三河武士の中でも際立った存在でした。16歳のとき徳川家康に仕え、33歳の太坂夏の陣で先駆け禁止の軍令を犯した責をとり、蟄居し、武士を辞めてしまいます。その後の丈山は、儒学者藤原惺窩に強く感化され、寛永18年(1641)59歳で、京都洛北一乗寺に詩仙堂を開きます。風雅を楽しみ、詩作に遊ぶ悠々自適の文人として生涯をここで送り、望郷の念を抱きながら、90歳の天寿を全うしました。丈山は、江戸時代初期を代表する漢詩人であり、隷書を初めて取り入れた書家としても知られるほか、作庭家でもあり、煎茶(文人茶)では、日本の開祖といわれ、現在においても文人として高く評価されています。

### 建造物

#### 学甫堂(丈山文庫)(市指定)

学甫堂は、石川丈山が京都に住み、書齋として用いた建物で、昭和44年(1969)丈山文庫庭内へ移築、復元されました。建物の横には、丈山の遺品である石燈籠とつくばいが据えられています。施設の中では、丈山の書をはじめゆかりの品々が収蔵されています。



学甫堂 ①



つくばい



石燈籠

### 建造物

#### 旧明治郵便局局舎及び官舎(市指定)

明治44年(1911)に旧明治村の郵便局として開局され、昭和42年(1967)まで、郵便集配、預貯金、保険や電信業務などを行なっていました。

旧局舎は梁間4間、桁行5間で、洋風の意匠を採用しながらも、小屋組みには、和小屋を用いています。また、鬼瓦には千字の文様が施されています。旧官舎は、近代の数寄屋趣味を加味した、書院の構えを示しています。これらは、局舎と官舎がセットとなって残っている点で注目されます。

旧局舎：木造平屋建 寄棟造  
旧官舎：木造平屋建 西面寄棟造、東面切妻造 棧瓦葺



旧明治郵便局局舎 ②



旧官舎

### 史跡

#### 石川丈山邸址(丈山苑)(市指定)

石川家は、丈山の曾祖父以来の三河武士で徳川家に仕え、家康の関東移封までこの地に住み、和泉町中本郷がその邸址であったと伝えられています。現在、丈山邸址は、京都詩仙堂の庭園と建物を模して整備され、丈山苑となっています。苑内には、丈山銅像のほか、処々に丈山の漢詩碑を配しています。



石川丈山銅像 ③



丈山苑(詩泉閣) ③

### 墓碑

#### 都築弥厚墓碑(本龍寺)

本龍寺は、江戸時代初期に寺号を付与されたと伝わる浄土真宗大谷派の寺院です。

境内の墓地には、明治用水開削の功労者である都築弥厚の墓があります。弥厚は、この本龍寺に山門や土塀を寄進したという記録もあり、篤志家の一面を持っていたことがうかがえます。



本龍寺



都築弥厚墓碑 ④

## 都築弥厚

都築弥厚は、明和2年(1765)和泉村(現在の安城市和泉町)に生まれました。当時、安城市域の多くでは、水が乏しく水田開発が困難でした。そこで弥厚は、矢作川の上流から水を引き、ここに灌漑、開墾することを思い立ちます。彼は石川喜平とともに水路の測量を行い、具体的な用水計画を立案します。しかし、農民や領主たちからの激しい反対にあい、計画を実現できぬまま亡くなってしまいます。

弥厚の計画は、明治時代になり、岡本兵松と伊豫田与八郎の2人が引き継ぎます。そして、明治13年(1880)には現在の明治用水ができ、弥厚の夢がようやく実を結ぶのです。その後安城は、日本デンマークと呼ばれる豊かな農業地域へと、変貌を遂げていくことになります。

### 顕彰地

#### 弥厚公園(北本郷古墳)

弥厚公園は、都築弥厚の偉業を讃える目的で、出生地の和泉に大正7年(1918)に造られました。

また、公園内にあったとされる北本郷古墳からは、鏡、鉄剣や管玉などが出土しています(市指定)。



\*安城市歴史博物館の常設展で展示中。  
←北本郷古墳出土品



都築弥厚銅像 ⑤

### 社寺

#### 和泉八剣神社

八剣神社は地域の鎮守社として、江戸時代(正徳年間・1711以後)に現在の地に造営されました。

ここに奉納されている額絵馬6面(市指定)のうち4面は、都築氏(都築弥厚の一族)奉納によるもので、写真のものは、都築氏により文化7年(1810)8月に奉納された絵馬です。



和泉八剣神社 ⑥



八剣神社の絵馬



和泉のみちしるべ ⑦

「右 にしを 左 をかざぎ」

## 天然記念物

### 信照寺のシイ (市指定)

信照寺は、江戸時代後期に寺号を付与されたと伝わる浄土真宗大谷派の寺院です。

シイは、墓地の中央でまるで墓を見守るかのようによびえ立っています。これも巨木のひとつで幹の太さでは市内随一です。

樹齢：約400年  
胸高囲：4.9m 樹高：25m  
枝張り：東西12m 南北：12m



シイ 8



信照寺

## 天然記念物

### 榎前のクロガネモチ (県指定)

当時、各家々の鬼門にモチの木を植える習慣があったと伝えられ、その名残の木と考えられています。以前は、傘を広げたように枝を張る姿が美しく、県下有数の巨木のひとつとなっていました。現在は枝葉も殆んど無い状態となっています。

樹齢：約400年  
胸高囲：3.3m 樹高：19m  
枝張り：東西23m 南北：22m



クロガネモチ 9

## 道標

### 懐かしの道標



①「右 さくらひ 左 をかさき」



- \*榎前町内4か所にあったものを移設。
- ②「右 かりや 左 たかはま にしはた道」
- ③「右 たかはま 左 大はま」
- ④「右 さくみち 左 にしを道」

10

\*榎前、和泉両町内では、現在でもみちしるべの姿を見ることができます。

## 無形民俗文化財継承地

### 三河万歳保存会練習場

この施設は、国指定の三河万歳を後世に継承するため、万歳の伝承及び練習の場として建てられました。昭和42年(1967)榎前町の人たちにより、安城の三河万歳保存会が結成されます。その後、愛知県指定を経て、平成7年(1995)には、西尾市・幸田町とともに国の重要無形民俗文化財に指定されます。演目では、「神道三河万歳」、「三河御殿万歳」、「三曲万歳」があり、正月を中心に神社などで演じられています。



三河万歳保存会練習場 11



三河万歳の実物大レプリカ

## 社 寺

### 榎前八剣神社

榎前八剣神社は、正徳2年(1712)の神社帳に載せられており、それ以前から祀られていたと考えられます。

明治6年(1873)の神社取調帳には、祭神が日本武尊と記載され、不明となっていた祭神が創建以来初めて明記されました。



榎前八剣神社 12

## 石 碑

### 狐塚・おとけさ古戦場

榎前の狐塚には、天文10年(1541)箕輪城主浅井氏が、篠目城主の追撃を受けて戦死した「おとけさ古戦場」があります。この辺は松原続きで、1匹の老齢の白狐が、狐や狸の群れに君臨していました。あるときその白狐が死んでいるのを見つけた村の人々は、丁寧に埋葬して土饅頭を作り上げました。これを狐塚と言ひ、この付近は字狐塚という地名となりました。



狐塚之碑 13

## 社 寺

### 井杭山神社

榎前町井杭山の神社は、明治の初め頃入植者により建てられ、熱田社と秋葉社が祀られています。当初は、個人敷地内にありましたが、昭和30年代頃、現在の場所へ移転しました。



井杭山神社 14

## 石 碑

### 近藤章平翁碑

ガラ紡工場の進出により、間屋川水系の冬季湯水が深刻となり、近藤章平氏の明治用水組合との交渉により、導水を実現しました。

(大正11年1月建立) 15



## 顕彰地

### 岡本兵松銅像 (石井辻原遊園内)

岡本兵松は、文政4年(1821)大浜村(現在の碧南市浅間町)に生まれました。都築弥厚の計画を引き継ぎ伊豫田与八郎と共に明治用水を開削した功労者です。石井辻原遊園内に立像と記念碑が建てられています。毎年6月には、遺族と明治用水関係者を招いて報徳祭が開催されています。



岡本兵松銅像 16

## 社 寺

### 石井神明社

明治2年(1869)有志の人が神明社の御神符を請け、松の木に縛りつけたのが始まりで、翌3年には、雨覆の小さな社殿が建造されました。地域の人々の鎮守神として祀られ、その後、明治14年(1881)赤松村の若松社を買い受け、翌15年に落成しました。



石井神明社 17

## 社 寺

### 明水寺

明水寺は、真宗大谷派の寺です。岡本兵松が法義示談所を建てたのが始まりです。その後、説教所となりました。毎年4月に功労者追法要、11月に新穀感謝法要が実施されています。



明水寺 18